

武州一揆、名栗村の場合

山口正義

慶応二年六月、武州世直し一揆が発生しました。発生元の上名栗村の様子はどのようなものであったのか、『名栗の歴史』（飯能市教育委員会、二〇〇八年）よりまとめました。

まず背景として飯能地域の米価の高騰がどのようなものであったか。上名栗村は山間地で主に飯能方面から米穀を購入していました。俗に金一両で米一石（ \parallel 10斗 \parallel 100升）というのが、安政期（一八五四〜）には40〜50升、文久元年（一八六一）には30升、慶応元年（一八六五）には10〜20升、慶応二年（一八六六）には10升しか買えず、凡そ十分の一という高騰ぶりでした。

以下は村役人の体験記を元にしています。

（六月十三日夕方）夕方七ツ半（五時頃）、正覚寺の檀家の者が米穀の値下げを頼みに飯能の穀物商の元へ行くという噂が村役人のもとに入る。村役人たちは一揆勢が勢揃いしている不動淵に行つて止めようとするが、提灯の灯りを見て大勢が一挙に押し出してきた。村役人が「控えよ」と一喝すると、道が狭いところを大勢に押されて落とされる者などが出て大混乱となった。後から追いかけて引き止めをはかるが、振り切つて行くとする。村役人が「ひとまず話を聞け」というが、一揆側は耳にも止めず突破していった。鍛冶屋橋まで追いかけたが引き止めに失敗した。

（六月十四日）村役人の側は飯能まで引き止めに行く組と、岩鼻陣屋（高崎、上名栗はその支配下だった）へ注進に行く組に分かれた。注進の内容は次のようなものであった。

「六月十三日暮六ツ時頃、村内困窮の者が米穀値段の値下げを願い、飯能へ向かうというので、村役人は止めようとした。しかし既にほとんどの者が在宅せず、驚いた村役人が追いかけているところです。飯能までは四里もあり、先方の様子はわかりませんが、尋常なことではないので取りあえず報告します」。

飯能へ向かった村役人たちは、新寺という所で既に朝五ツ時頃、飯能の酒屋八左衛門・堺屋又右衛門等の穀物商四軒が打ち壊されたことを聞き、どうしようもない事態だと知る。

一揆勢は牛沢・黒須・所沢と進み村役人たちも引き止めに行つたがいずれも失敗する。

（六月十五日）村役人たちは所沢から飯能に戻り、そこで打ち壊しが名栗に向く（戻る）という噂を聞く。午後四時頃上名栗へ帰村。下名栗の加藤家で掛け合いなどの情報が入る。一揆勢が山王峠を越え、赤根色の布を頭巾にし、白布鉢巻き、白たすきで大きな音をあげながらやつて来るといふ話も出てくる。

（六月十六日）施金交渉始まる。名栗の物持ちへの要求は、一回目の要求は計二千両だったが、二回目は二万三千両に跳ね上がる。三回目は九千両となる。加藤家には白布たすき・鉢巻きをして六尺棒・鳶口・木刀などを所持して村人約百人余りが集まり、二千両施金、時貸し分帳消し、質物返還などの要求をし、逆らえば打ち壊すと迫り証文をとつたという。しかし、結局は諭されて証文は返し、施金は計千両となった。

（六月十七日以降）岩鼻陣屋への報告は、「飯能河原へ結集した村人約二百人は、十六日には追々戻つてきているのに紋次郎・豊五郎・留吉の三人は帰っていない。このような事態が発生したのは村役人の普段の諭し方が不十分であったため、どうか勘弁してもらいたい」というものであった。

（首謀者の詮議と嘆願運動）七月二日関東郡代留吉岡静助等が上名栗に到着。大勢の村人が出て山狩りをし、やがて紋次郎・豊五郎を召し捕る（それまでは匿っていたかも知れない）。吟味に対して、紋次郎が飯能に行つた際、飯能河原で成木村悪惣（惣五郎、中村喜左衛門）に会い、米穀が高値で難渋している、近々飯能に掛け合いに行くのでその時には声を掛けると言われた為困窮のあまり話のつてしまった。豊五郎にこの話をし、六月十三日の朝に悪惣の使者が来たため村の者に結集するように先導したと述べている。

七月二六日に三人は関東取締出役へ引き渡される。二八日には留吉の嘆願のため村役人が岩鼻陣屋へ。結

局、留吉は八月三日に赦免、紋次郎・豊五郎は勘定奉行所へ。
 (その後) 施金千両は、八月二四日に三六九両、翌一月二四日に三三三両、四月十七日に二九八両支払われた。上名栗の人数は一三三八人、家数二七一軒であり、困窮者の手には一両余りになった。紋次郎の裁きは死罪、豊五郎は遠島であったが、正式裁き前に兩人とも獄中死している。

舌足らずの要約ですが、最後に一揆のリーダーと目される三人について概要を表にまとめます。禁圧されていた一揆ではありますが、止むにやまれぬ行動であったことは理解しなければなりませんと思います。

(「古文書はむら」第2号、平成25年3月)



島田紋次郎の墓 (上名栗、2012年9月)

慶応二年
 寒窓了山禅定門
 十月廿日
 紋次郎俗名

氏名	村	職業	年齢	処分	没年	墓	法名
中村喜左衛門 (惣五郎)	下成木	組頭 博労	58	中追放	明治3年 9月19日	移転後 安楽寺	光喜動了 信士
島田紋次郎	上名栗	百姓 宮大工	42	死罪	慶応2年 10月20日	島田家 墓地	寒窓了山 禅定門
新井豊五郎	上名栗	百姓 桶職人	44	遠島	慶応2年 11月11日	新井家 墓地	貫応意戒 禅定門